

第2号 育苗初期・土づくり編

庄内総合支庁 農業技術普及課

Tel. 0235-64-2103

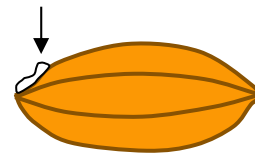
苗半作！健苗育成に向けたポイントを確認しよう！

【催芽～播種時】芽切れ・鳩胸状態の確認と覆土の厚さに注意！

うるち品種の催芽時間の目安は、30～32℃、20時間程度です。
例年の催芽時間にとらわれず、90%程度の芽切れ・鳩胸状態が確認できるまで行います。
出芽のそろいを良くするため、覆土は厚くならないように注意しましょう。

- 芽の長さ 1mm 程度（鳩胸状態）を確認
- 催芽終了時に 90%程度の芽切れ粒を確認
- 覆土の厚さは、床土使用の場合 5～7mm 程度
育苗マット使用の場合は 10mm 程度

芽の長さ 1mm 程度



〈図1〉 鳩胸状態の目安

【出芽～硬化期】ハウス内温度を適切に

育苗中の温度管理は表1を目安に行います。
高温になる場合は、遮光資材をかけたり、育苗ハウスの両脇を開けて換気したりします。

〈表1〉 生育段階別の温度管理の目安

	出芽	緑化期 (～1.0葉期)	硬化期 (1.5葉期以降)
昼間	30～32℃	25℃	15～20℃
夜間		15℃	8℃以上

苗箱付近の温度を、
温度計でしっかり確認！

【緑化期】マルチ除去は遅れずに！

緑化期のマルチ除去が遅れると軟弱徒長苗の原因となります。
マルチを除去は表2を参考に、温暖な日に行います。

〈表2〉 マルチ除去の目安

	苗丈 (cm)	葉齢 (葉)
ハウス育苗	2.5	0.8
トンネル育苗	3.0	1.0

異常気象に負けない稲を作れる圃場の準備をしよう！

【乾土効果を高める】早めの耕起を！

耕起後、作土全体をよく乾燥させることで、乾土効果により土壌中の窒素が有効化され初期生育の確保が容易になります。

□作土をよく乾かすため、早めに耕起を行う

□ぬかりやすい圃場は、明渠等で排水を良くし、適期に耕起ができるようにする

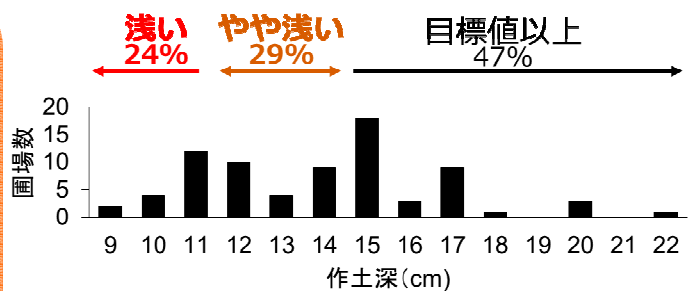
【作土深の確保】トラクターの馬力に合わせてゆっくり深く

鶴岡田川地域の圃場では、半数以上が作土深 15cm 未満でした！

耕起の際は、意識的に深く起こすよう心がけましょう。

作土深を 15cm 以上確保することで、

- ①根域拡大と根の活力維持、
- ②土壌の養分保持量・養分供給力の増強につながります。



〈図2〉鶴岡田川地域の圃場の作土深 (76 圃場、R2 普及課調べ)

□トラクターの馬力に合ったスピードで耕起作業を行う

【堆肥の施用】

①土壌を軟らかくし保水力を向上、②登熟期の窒素状態と土壌水分の維持に効果があり、登熟が向上。白未熟粒・胴割れ粒の発生を軽減します。

【土づくり資材の施用】

アルカリ分とケイ酸を含む土づくり資材を施用することで、

①土壌pH改善によるワキ防止

②光合成効率を高める

特に、冷害や高温・少照年で増収効果が大きい。

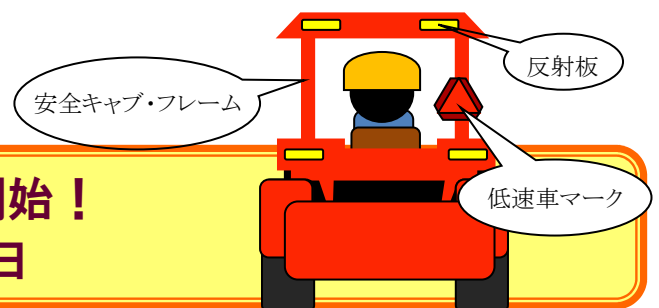
〈表4〉土づくり資材施用の有無による収量の比較

	20年間の平均収量	冷害年の収量	高温・少照年の収量
慣行ほ場	644	563	601
ようりんケイカル連用ほ場	671 (+27kg)	604 (+41kg)	644 (+43kg)

(1981年連用開始、農業総合研究センター)

□土壌 pH の目標値 : pH5.5~6.0

□CEC25 以下の圃場から優先的に土づくりを行う



春季農作業事故防止運動開始！

4月10日～6月10日